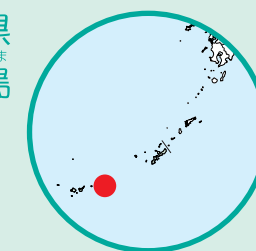


沖縄県  
みやこしま  
宮古島



「食」を支える  
わが国の誇り  
事例紹介

# 世界初の地下ダムの 美ぎ水で地域に潤いと活力を

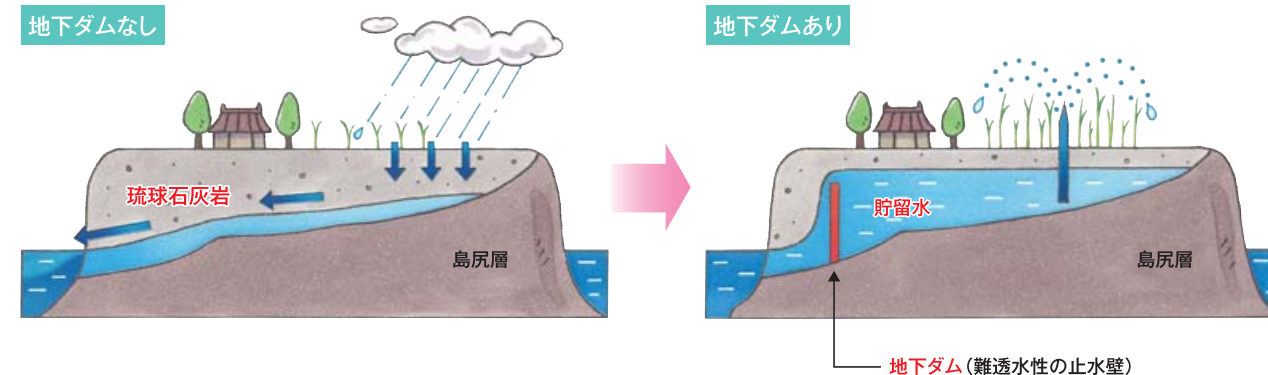
## ◆世界初の地下ダムの構造

宮古島の土地は、透水性の高い琉球石灰岩でできており、雨が降っても約4割が土壌面からそのまま地下水となって海に流れ出てしまうことから昔から水不足が地域の課題でした。そこで、地下水の流れている琉球石灰岩帯に止水壁を設けて水を貯め、その水を汲み上げて利用する世界初の地下ダムを建設しました。この技術を用いて既に2カ所の地下ダムが建設されました。また、現在、さらなる安定した用水の確保と、伊良部島での用水確保のため、2カ所の地下ダムと伊良部島まで用水を通すための用水路が計画されています。最終的には9,516haの農地に水が供給されます。

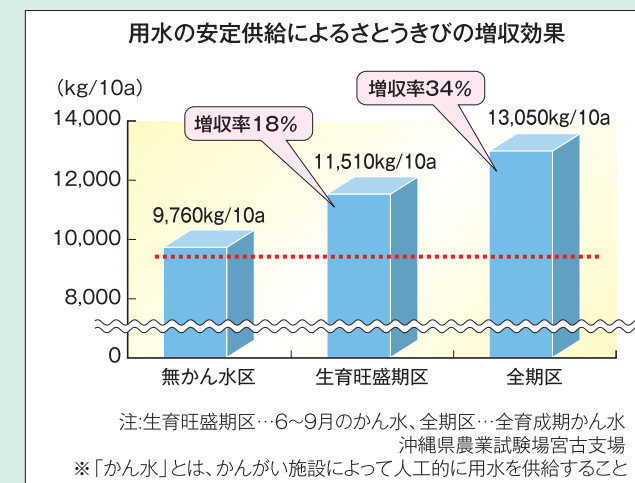


世界初の地下ダム

地下ダム



## ◆美ぎ水の潤いは、農産物の安定供給と高品質化をもたらしています

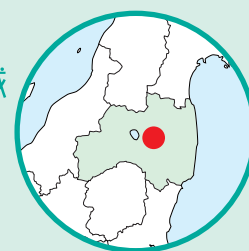


マンゴーの施設栽培状況

「食」を支える  
わが国の誇り  
事例紹介

# 原野に導かれた水によって 豊潤な安積地域が誕生 ～地域を変貌させた安積疏水～

福島県  
あさか  
安積地域



## ◆広大な水田地帯を豊かに潤し、地域の発展に貢献

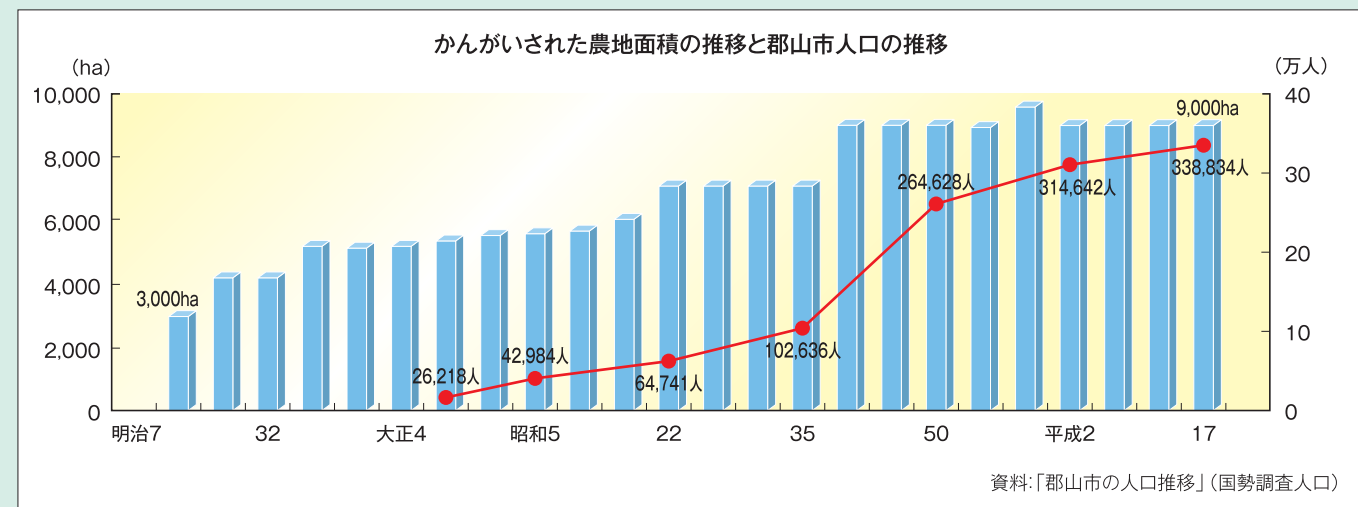
明治11年にオランダ人技師ファン・ドールンが安積地域一体を調査し、猪苗代湖を貯水池利用する安積疏水事業計画が策定されました。この事業計画に基づいて、明治12年に着工され、明治15年に国直轄の最初の農業水利事業として、総延長130kmの安積疏水が完成し、3,000haの原野を開田しました。土族449戸が入植し、困窮する土族の生活を支えました。その後の農地開発により農地は約9,000haまで拡大し、安積地域は豊潤な水田地帯へと変貌しました。安積疏水は、その規模と地域へのインパクトの大ききから、那須疏水、琵琶湖疏水とともに三大疏水と呼ばれています。



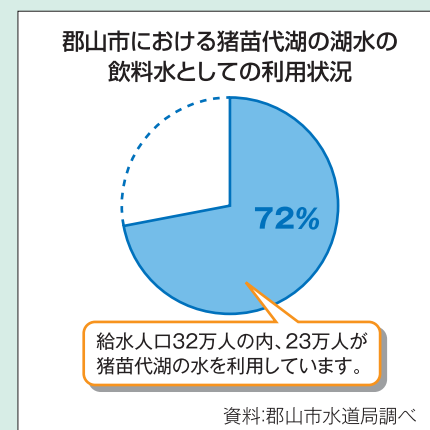
熱海頭首工



豊かな水田地帯



## ◆米の生産増につながっただけではなく、現在は飲料水としても利用されています



## ◆工業化を促進、地域の発展にも貢献

安積疏水の高低差を利用した水力発電所からの電力を利用して紡績・製糸工業が発展し(大正末期には3,000人が働く「製糸の町」と言われる)化学工業など他産業の進出を促進しました。近年では工業地域として発展し、いわき市に次ぐ東北地方第2の工業都市にまで発展しています。



郡山市街(写真提供:郡山市ふれあい科学館)